

# 事業計画書

平成23年度  
(2011年)

自 平成23年4月1日  
至 平成24年3月31日

## 目次

平成 23 年度事業計画概要.....	1
普及事業部 .....	5
競技会事業部.....	14
国際交流事業部 .....	17
その他の事業.....	19
九州支部.....	20
福岡ブリッジプラザ .....	22

# 平成 23 年度事業計画概要

(自平成 23 年 4 月 1 日 至平成 24 年 3 月 31 日)

## 1. 基本方針

### 新公益法人制度への対応

平成 20 年 12 月 1 日に施行された公益法人制度改革関連 3 法に基づき、本年度は、新制度下での公益社団法人認定を目指して、内閣府への移行認定申請を行い、平成 24 年 4 月からの新公益社団法人への移行を予定している。今回の制度改革を JCBL 本来の理念と活動を再確認する機会と捉え、マインドスポーツとしてのコントラクトブリッジを通じて豊かな社会の実現に寄与する法人としての自覚と責任を持ち、公益性をより一層高めることに留意しながら事業活動を行っていく。

### 第 2 次 5 ヶ年計画

本年度は、第 2 次 5 ヶ年計画の後半に入る 4 年目を迎える。遂行管理面で課題が残った中間時点での評価内容を踏まえ、管理体制の改善と強化をはかり、関連事業の着実かつ計画的な実施を徹底する。特に進捗が遅れている「連盟事業の改善」分野については、早急に計画全体を見直し、残り 2 年間の具体的な目標を再設定したうえで、事業を進めていく。

以下に第 2 次 5 ヶ年計画の重点項目を記す。

- ① 連盟事業の改善
  - (a) 健全な財務体質の実現（企画委員会・事務局）
  - (b) 業務の効率化、質の向上（事務局）
- ② 競技会関連サービスの向上
  - (a) 競技会場の環境改善（センターサービス向上委員会）
  - (b) 魅力ある競技会の開発（競技会事業部・普及事業部）
- ③ 戦略的普及活動の推進（普及事業部）
  - (a) 地方大都市圏の活性化
  - (b) 普及システムの強化
- ④ 国際交流事業の活性化
  - (a) APBF（旧称 PABF）大会の開催（国際交流事業部）
  - (b) マインドスポーツ普及活動の支援（普及事業部・国際交流事業部）

2. 以下、上記重点項目を中心として本年度事業計画の概要を述べる。詳細は事業別の計画を参照されたい。

## (1) 連盟事業の改善（企画委員会・事務局）

新制度下での公益法人には、透明性を一段と高め、説明責任を果たすことができるような内部統制が求められている。本年度は、この観点から組織・事業・業務を見直し、適切な管理体制の構築に取り組む。

### **健全な財務体質の実現**

東日本大震災の影響により、本年度は通常とはまったく異なる事業環境となることが予想される。競技会参加状況等にどの程度の影響がでるかは予測不能であるため、状況を注視しながら、例年以上に事業および予算の執行管理を厳格に行っていく。

また、健全な財務体質の実現に向けて、5ヶ年計画後半の2年間では、客観的な評価基準を組み込んだ事業計画立案方式および予算編成方式の構築に取り組む。本年度は、まず現状分析を行ったうえで具体的な方法を検討し、来年度予算編成時に試験的に導入して修正を加え、平成24年度からの本格導入を目指す。

### **業務の効率化・質の向上**

#### 1) 連盟事業・事務局業務の全般的な効率化

昨年度に開始した事務局内の担当業務および管理体制の見直しを継続、改善策を検討して、随時実施していく。

#### 2) サービス全般の質の向上

引き続きブリッジ関係者・愛好者の負担軽減に努め、質の高いサービスの提供に取り組む。その一環として、会費支払の際の利便性向上のため、平成24年度分よりコンビニ払いを追加するとともに、郵便振替の場合の送金手数料を連盟負担とすることとした。また、本年度中に会員・会友のニーズ調査を実施し、新たなサービス向上策を検討する。

#### 3) ブリッジに関するノウハウセンターとしての役割の確立

ブリッジに関する情報提供の充実化策として、本年度はウェブサイトの全面リニューアルを予定している。専門知識がなくても更新が簡単にできるCMSシステムを導入し、よりタイムリーに情報を発信していく。また、古い資料のデジタル化等、事務局内のデータベース整備を進める。

## (2) 普及事業部

### **魅力ある競技会の開発**

初心者向け競技会の開催・奨励・支援を継続するとともに、「デビュタント杯」・「ビギナーズ杯」に参加して競技会参加に関心を持ってくれたプレイヤー層のさらなる定着を狙い、マスターポイント20～50点位の層を対象とする新たな競技会の開発に取り組む。また、本年度の国民文化祭（京都）では首都圏以外で初めて「デビュタント杯」「ビギナーズ杯」を開催し、同地区の初心者にもブリッジ競技の魅力を知ってもらう機会とする。

## **戦略的な普及活動の展開**

### 1) 地方大都市圏の活性化

基礎調査に基づいて戦略的ターゲット地域に選定した関西・神戸地区の活性化を軸に、他の大都市圏においても将来の基盤作りのための活動を積極的に行う。

九州支部では、目前に迫った 2012APBF コンgress福岡大会に向けて、引き続き普及広報活動に注力していく。福岡ブリッジプラザでは、新人の開拓と定着およびと競技会参加者の増加をはかりながら、組織的な運営体制の構築に取り組む。

### 2) 普及システムの強化

平成 21 年度に導入した「普及ネット」をより効果的に活用するため、利用者からの要望を検討したうえで、システムの改良をはかる。また、中長期的な観点から、公益社団法人に相応しい広報戦略を策定するための調査活動を継続する。

## **国際交流事業の活性化**

### 1) 2012APBF コンgress福岡大会広報活動

昨年度から準備を進めてきた大会専用の特設ウェブサイトを 7 月に開設予定、随時情報を更新し、内外からの参加予定者向け PR を行うとともに、大会ポスターなど、広報ツールの制作も進める。

### 2) マインドスポーツ普及活動の支援

引き続きブリッジの社会的認知度・信用度・普及力を向上させるため、他のマインドスポーツ団体とのジョイント活動を行っていく。

## (3) 競技会事業部

### **魅力ある競技会の開発**

普及事業部と協力して、競技会参加動向の分析調査、プレイヤーを対象とするグループ調査等を実施し、魅力ある競技会とはどのような競技会なのか、具体案を検討する。魅力ある競技会を開催することにより、競技会参加者の増加、およびそれに伴う競技会収入増をはかり、健全な財務体質の実現に貢献することを目指す。

### **競技会の環境改善**

「常設コントラクトブリッジ会場運営のためのサービス・ガイドライン」の制定および施行によりセンターサービス向上委員会の役割はほぼ完了したため、同委員会は本年度中に解散する。ガイドラインの実施状況管理・改訂作業、意見書対応、救急管理システムの管理等、同委員会が担当していた業務は事務局に移管し、事務局の通常業務として継続していく。

### **競技会運営ソフト (JTOS) の保守およびバージョンアップ**

ブリッジメイト導入に伴う JTOS の改造を継続、今夏、製品版をリリースする予定。

### ディレクター育成

昨年度に引き続きナショナルディレクターの養成をはかる。また、引き続きクラブディレクター育成のための講習会、実地研修などを実施する。

#### (4) 国際交流事業部及びその他の事業

##### 国際交流事業の活性化

例年通り、本年度も、世界ブリッジ連合総会（オランダ）および第 48 回 APBF 選手権（マレーシア）への代表派遣、世界同時大会と APBF 同時大会への参加、NEC ブリッジフェスティバルの開催等を通じて、国際親善と交流をはかる。

平成 24 年（2012 年）の APBF コングレス福岡大会の成功に向け、地元の九州支部および福岡委員会と連携して大会の開催準備作業を進める。

マインドスポーツとしてのブリッジの社会的認知と普及を推進するための手段として、アジア大会への参加およびチェス、碁に続く JOC への加盟の実現を具体的な目標に掲げ、日本棋院（国際囲碁連盟）、日本ペア碁協会、日本チェス協会と提携、協力して、囲碁、チェスの大会でのブリッジの紹介や競技会の共催等の活動を行う。

##### **【注記】**

本年度事業計画では約 2500 万円の事業活動収支赤字を見込んでいるが、これは体制強化のための業務委託費、普及事業部での動画作成およびウェブサイトリニューアル費用など、一時的要因に基づく費用増が重なったことによるもので、この赤字傾向が継続することを示唆するものではない。JCBL の予算規模に対し 2500 万円という赤字は決して少ない金額ではないが、将来のために必要な投資としてご理解願いたい。ただし、前述のとおり、本年度は東日本大震災の影響により競技会収入が予想を大幅に下回る可能性もあり、そうしたなかでの赤字予算計上であるため、必要であれば優先順位の低い事業の延期を検討する等、適切な予算執行管理を徹底するものとする。

# 普及事業部

## 事業の状況

定款第5条に定められた(1)「コントラクトブリッジに関する広報及び講習会等の開催と援助」、(2)「コントラクトブリッジクラブの育成と公認」、(3)「コントラクトブリッジ競技会の開催と公認」、(5)「コントラクトブリッジを通しての国際交流」(6)「コントラクトブリッジに関する出版物の発行及び資料の収集と管理」に関連して、本年度は以下の事業を実施する。

## 普及部会【12,747千円】

イベントへの参加、体験教室・講習会の開催支援、地方活性化支援、会員の獲得および定着化活動などを実施し、ブリッジの全国的な普及と現場直結型の普及システムの強化に引き続き取り組む。

### 1. ブリッジの普及のためのイベントへの参加、講習会などの開催および普及活動支援

#### (1) 「第26回国民文化祭2011京都」競技文化フェスティバル (871千円)

囲碁・将棋・百人一首とともに、今回初めて「競技文化」のカテゴリーでの参加と競技会開催が要請されたことから、通例の体験教室のほかに、初心者および中級以上向け競技会も開催する。JCBLの地方活性化策のターゲット地域関西地方での開催であるため、大阪BCと地元ブリッジクラブにも協力を要請し、同地方のブリッジ振興に最大限役立てて行く。

【会期】平成23年10月29日～11月4日(7日間)

【会場】京都府総合見本市会館(パルスプラザ)

【事業内容】① ミニブリッジ体験教室、練習サロン  
② 連盟主催競技会(2日間)  
③ 普及事業部主催初心者大会(2日間)  
\*「関西デビュタント杯」...競技会未経験者限定  
\*「関西ビギナーズ杯△5MP/△20MP」  
④ パネル、カードおよびブリッジが登場する小説などブリッジ関連資料の展示  
⑤ 各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

#### (2) まなびピア「平成23年度全国生涯学習ネットワークフォーラム岩手大会」(342千円)

まなびピア本会場(滝沢村)は交通の便がよくないことから、サブ会場の盛岡市でのイベントに出展する。普及活動に熱心な盛岡ブリッジクラブに運営を委託し、仙台BC、秋田BCにも協力を要請する。東北地方でブリッジの認知度を高める機会と捉え、同地方におけるブリッジのさらなる活性化につなげる。

【会期】平成23年10月15日～17日(3日間)

【会場】盛岡市観光文化交流センター「プラザおでつて」

【事業内容】① ミニブリッジ体験教室、練習サロン  
② パネル、カードおよびブリッジが登場する小説などブリッジ関連資料の展示  
③ 各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

(3) NECブリッジフェスティバル体験教室 (994 千円)

最大の普及イベントと位置付け、未経験者にブリッジの楽しさを経験してもらう「体験教室」と、基礎を習得したばかりの初心者に競技ブリッジのおもしろさを体験してもらう「初心者ゲーム大会」の2本柱で開催する。また、囲碁、チェス、チェッカー、シャンチーの団体と連携して、「社会に役立つブリッジ＝脳の働きを活性化するマインドスポーツ」をアピールするプログラムを展開し、愛好者拡大をはかる。昨年度に続き、地方在住の初心者ペア数組を初心者大会に招待する企画を実施する。

[会期] 平成24年2月17日～18日(2日間)

[会場] パシフィコ横浜アネックスホール(神奈川県横浜市)

[事業内容] ① 体験イベント「Let's play マインドスポーツ! ミニブリッジ体験教室 with チェス、囲碁、チェッカー、シャンチー」  
② 初心者ゲーム大会「デビュタント杯/ビギナーズ杯」  
③ パネル展示、プロモーションビデオ放映

(4) 「ブリッジを愉しむ会」(730 千円)

年4回、日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤー諸氏が交流を愉しむ場として企画。

(5) ブリッジインストラクター講習会 (749 千円)

[事業内容]

① ミニブリッジから入るブリッジ指導法講習会の開催

指導法の浸透が進むとともに、指導法説明ツールが整備され、ウェブサイトからダウンロードできるようになったことから、今後は事業部で開催計画を立てるのではなく、開催要請に応じる形で開催していく。

② 体験教室実施マニュアル映像の製作

実際の体験教室光景を15分程度の動画にまとめて希望者に配布する。リニューアル後のウェブサイトにも掲載し、誰もが閲覧できるようにする。

(6) 体験教室・講習会への助成 (3,490 千円)

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増をはかる。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援する。

(7) カルチャースクール講師助成 (500 千円)

ブリッジを広めるにあたって特に重要と普及事業部が判断した地域のカルチャースクール入門講座講師のための助成。受講者数が少数でも、カルチャー側・講師側双方の開講意欲が高く、受講者増が見込まれる場合、講師料を助成する。

2. 地方活性化支援活動 (3,135 千円)

第2次5ヶ年計画の重点目標である「地方大都市圏の活性化」事業を引き続き推進する。優先地域はターゲット地域に特定した関西地方とするが、全国規模での活性化の促進のため、他の大都市圏においても様々な形で支援活動を継続していく。

[事業内容]

- (1) 「地方大都市圏活性化プロジェクトチーム」と連携して、神戸でのブリッジセンター新設に向け、実現の可能性を検討する。
- (2) 全国のクラブ・同好会による普及・会員サービス活動を奨励し、必要な支援を行う。



(3) 地方クラブ主催競技会での体験教室・初心者大会の併催を奨励し、講師派遣や広報活動など、地元が必要とする支援を行う。

(4) 地方クラブが育成する初心者プレイヤーの NEC ブリッジフェスティバル初心者大会への参加を助成する。

(5) ニーズ調査の実施

真に必要とされる効果的な支援を行っていくため、全国のブリッジセンター、公認クラブ、常設会場、同好会を対象に、アンケートやヒヤリングなど本格的な調査を実施する。

(6) 地方の普及担当者を対象とする研修会の実験的開催

### 3. 海外クラブへの支援 (30 千円)

海外各地のクラブ・同好会と情報を共有しながら、メンバーの定着、増加のために地元が必要とする支援を実施する。また、ブリッジクラブや仲間の紹介などの情報提供を中心に、赴任者・帰国者に対する支援活動も引き続き行う。

### 4. 会員サービス活動「全国ブリッジ巡って BINGO！」(250 千円)

地方競技会の活性化と会員の相互交流促進を目的に 3 年間限定で実施してきた本企画は、本年度が最終年となる。できるだけ多くの会員・会友に応募してもらうため、PR 活動を強化していく。最終年のビンゴ達成者は 50 名と予測している。期間中の全ビンゴ賞獲得者の中から抽選で 1 名を、来年の APBF コングレス福岡大会サイドゲームに招待する。

### 5. 会員獲得および定着活動 (1,437 千円)

会員の獲得・定着を目的に、以下の活動を実施するとともに、会員にとって魅力ある企画を引き続き検討する。

[事業内容]

(1) 「新入会・再入会キャンペーン」の実施

紹介者・入会者に QUO カード進呈 (1 名 20 枚まで)

(2) 初心者大会の主催 (NECBF 時以外) / 共催

(3) 「NECBF ビギナーズ杯招待企画」の実施

首都圏以外の 9 地方から各 1 ペアの交通費・宿泊費・参加料を支援

### 6. 「普及ネット」プロジェクト (220 千円)

普及システム強化の基盤となる「普及ネット」をスタートしてから 3 年目を迎える本年度は、ブリッジインストラクターの増加、ネットワークのさらなる有効活用、および「普及通信」のより一層の充実化に取り組む。

[事業内容]

(1) 情報共有メディア「普及通信」ウェブ版の定期更新

(2) インターネットを使用しない人への「普及通信」郵送

(3) 「ブリッジインストラクター登録証」の発行

## **教育部会**【2,020 千円】

若年層の底辺拡大と社会におけるブリッジに対する認知度向上のため、教育現場におけるブリッジ普及活動を活性化させることを目的に、本年度は次の事業を実施する。

### 1. 東京大学ブリッジ講座支援（670 千円）

全国の教育現場をはじめ、社会におけるブリッジの認知度・信頼度向上に貢献して6年目を迎える東京大学教養学部全学体験ゼミナール「考える力を養う～コントラクトブリッジ」授業（2単位前期／後期 各13回授業 東京大学駒場キャンパス）を支援する。

#### [事業内容]

- (1) 準講師格アシスタント2名の派遣
- (2) 四谷 BC での最終授業（1日）開催支援
- (3) 教材コピー、発送など事務業務支援
- (4) 受講学生への JCBL 会報配付支援

### 2. 早稲田大学ブリッジ講座支援（1,200 千円）

早稲田大学メディアネットワークセンターに提携講座として設置され3年目となるブリッジ講座「コントラクトブリッジで学ぶ数理科学入門～論理的思考力を身につけよう」（2単位 前期／後期 各15回 早稲田大学理工学部キャンパス）を支援する。また、開講目標に設定された「青少年の論理的思考力を育てることを目標にしたブリッジ指導法の研究」（論文は毎年情報処理学会で発表）に協力する。

#### [事業内容]

- (1) 講師料、アシスタント料の支援
- (2) 教室使用料
- (3) 交通費
- (4) 授業・学会発表に要する経費の支援（印刷・コピー費など）

### 3. 学校ブリッジ講師養成／助成（23 千円）

教育現場によって、校風、ブリッジ授業に期待する内容、講師に対する謝礼などの条件はまちまちである。このため、講師派遣要請を受けた時点で、個々のニーズに応じて適切に指導できる講師を紹介する。必要な場合には、講師料の助成も行う。

### 4. ブリッジ授業拡大活動（127 千円）

教育現場でのブリッジの正規授業や課外授業の採用を働きかける事業。遠隔地1校、近距離2校の新規開拓を想定して、予算計上。

## **ユース部会**【6,629 千円】

将来のブリッジ界を担う若年層プレイヤーを育成するため、本年度は以下の事業を行なう。

### 1. 青少年対象イベントへの参加（121 千円）

教育関連機関（文部科学省・教育委員会・学校・PTA など）や行政機関（都道府県・市町村）などが主催する青少年対象イベントで体験教室を開催し、ブリッジの認知度・信頼度の向上をはかる。

## [事業内容]

- (1) イベントへの講師・アシスタント派遣
- (2) ウェブ・会報・チラシなどでの PR

## 2. 現役ユースへの支援

大学や高校のクラブ、および学生リーグへの支援を通じて、現役ユースの負担軽減と若年層プレイヤーの新規開拓・定着をはかる。

### (1) 新入部員獲得活動支援 (120 千円)

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動などを支援し、若年層プレイヤーの底辺拡大の一助とする。

### (2) 学生合宿の支援 (399 千円)

学生リーグ主催の夏季・春季合宿／学生選手権にブリッジを始めたばかりの学生の参加を促すため、ブリッジ1年目の学生の宿泊費・交通費の一部を助成する。また、要望があった場合は講師・アシスタントを派遣する。

### (3) ユースキャンプ (406 千円)

全国の学生を対象とする JCBL 主催のブリッジキャンプを開催し、学生同士の交流、技術向上、および代表候補登録者数増加をはかる。大学ブリッジ講座の受講生・修了生が次のステップを目指す場となることも期待している。広く一般から参加者を募るオープンキャンプとし、JCBL および各大学のブリッジクラブのウェブサイトなどを通じて告知・PR 活動を行う。

## [事業内容]

日程：平成 23 年 9 月 15 日～17 日 (3 日間)

場所：高尾の森わくわくビレッジ (八王子市)

## 3. ユース代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

意欲ある若年層プレイヤーのために、強化プログラムによる技術向上支援および日本代表としての海外遠征機会の提供・助成を行う。

### (1) 第 48 回 APBF 選手権大会へ 2 チーム (ジュニア/ヤングスター) 派遣 (2,466 千円)

会期：平成 23 年 6 月 15 日～24 日 (10 日間) 開催地：マレーシア、クアラルンプール

内容：26 歳未満 (U26) のジュニアチーム 6 名、21 歳未満 (U21) のヤングスターチーム 6 名、計 12 名の選手、NPC1 名の派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成。グレード 1 の国際試合のため、選手の自己負担額は 1 人当たり 2 万円。

### (2) 世界ユースコンGRESS大会への派遣 (1,276 千円)

会期：平成 23 年 8 月 21 日～30 日 (10 日間) 開催地：クロアチア、オパティヤ

内容：NPC とジュニア (U26) チーム 6 名を派遣。航空運賃、宿泊費、海外保険料、参加料、ユニフォーム代を助成。グレード 2 の国際試合のため、選手の自己負担額は 1 人当たり 3 万円。

### (3) 代表強化プログラム (1,542 千円)

平成 23 年度の代表選手および平成 24 年度代表候補登録者を対象に、強化プロジェクト指定の 7 競技会と特別講習会の参加費を助成する。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行う。代表選考試合の開催および代表チームの選考、各講習会への講師派遣を実施する。

(4) 海外競技会への参加助成 (300 千円)

国際交流の観点から、国際経験を積むためのユース会友の海外競技会への参加を積極的に奨励し、支援活動を行う。支援内容は、開催地、開催時期、競技会内容などを勘案し、審議したうえで決定する。

**ジュニア部会**【支出：2,968 千円】

マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジを通じて、児童・青少年の健全な成長に寄与し、また、将来のブリッジ界を担うジュニア層を育成するため、本年度は以下の事業を行う。

1. ジュニアくらぶ活動 (1,234 千円)

今年度の重要目標：長期的に継続可能な運営体制の模索、京葉 BC との連携による京葉地区でのジュニア普及活動の活発化、地方展開方法の検討、および ジュニア用コントラクトブリッジ初級教材の完成

[事業内容]

- (1) ジュニアくらぶイベントの企画・運営 (サロン式/レッスン式/集中講座式/大会/全日本チーム選手権など)
- (2) ジュニアくらぶ活動の運営・管理 (会員データ管理/スタンプラリー運営・管理)
- (3) ジュニア向け広報活動 (ジュニアくらぶ通信/会報・ウェブサイトジュニアコーナー/メール配信/チラシなど)
- (4) ジュニア向け普及システム・ツールの企画・開発 (ジュニア向け汎用教材/指導者の開拓・育成など)

2. ジュニア・ブリッジサロンの開催 (270 千円)

ジュニアが家族と一緒にミニブリッジを体験、練習できるイベント、ジュニアサロンを開催。本年度は、ヘビーリピーターを対象にコントラクトブリッジサロンを新設し、ミニブリッジを習得したジュニア層のコントラクトブリッジへの移行を支援する。

四谷・横浜・京葉地区で各 4 回開催 (半日イベント、無料、おやつ付き)

3. 橋之介道場シリーズの開催 (444 千円)

学齢・経験別に、四谷・横浜地区で月 1 回程度、京葉地区で年 5 回、①プレ道場、②ミニ道場、③スペシャル大会の 3 プログラムを実施 (有料)

開催数：プレ道場・ミニ道場...計 11 回 (四谷 BC4 回、横浜 BC4 回、京葉地区 3 回)

スペシャル大会...6 回 (四谷 BC・横浜 BC：1S/2S ゲーム各 1 回)

京葉地区：1S ゲーム 2 回)

4. ジュニアキャンプ/プレユースキャンプの実施 (676 千円)

夏休み恒例のキャンプを開催して、ジュニア同士の交流を促進する場、ブリッジの楽しさを深く知る場を提供し、ジュニア層の定着をはかるとともに、ジュニア普及に関心のある会員・会友の見学・研修の場としても活用する。本年度は、1泊2日の「ジュニアキャンプ」に加え、長期リピーター向けの上級プログラムとして2泊3日の「プレユースキャンプ」を新設した。講習会を実施して、コントラクトブリッジへの移行と知的好奇心の触発を促す。

なお、より多くジュニアの参加を促すため、今年度より、参加料の兄弟割引制度を新設 (2人目以降につき 2,000 円割引) した。

[事業内容]

場所：高尾の森わくわくビレッジ（八王子市）

(1) ジュニアキャンプ

日程：7/29～7/30、1泊2日

参加料（自己負担額）：11,000円

定員・対象：20名、小3～中3のジュニアくらぶ会員

(2) プレユースキャンプ

日程：7/28～7/30 2泊3日（2日目からジュニアキャンプ参加組と合流）

定員・対象：12名、中学生以上のジュニアくらぶ会員

参加料（自己負担額）：16,000円

5. ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催（30千円）

京葉BCで開催、1フロアを全部使用できる利点を活用し、会友や一般初心者プレイヤーの参加を積極的に呼び掛け、ジュニアと一般プレイヤーの交流をはかる。（有料）

6. 「第4回ジュニアチーム選手権大会」の開催（83千円）

[大会主旨] ジュニアブリッジ界で最も格式のある大会と位置付け、将来的には全国から代表チームが集って競う「全日本ジュニア・ミニブリッジチーム選手権」に発展させることを目指す。昨年に続き、サイドゲームとして大人も参加可のオープンペア戦「マクブリッジ杯」を併催。

[事業内容]

(1) 日程／会場：平成23年8月14日（予定）、四谷BC

(2) チームエントリー制

(3) 参加費：①選手権 4,000円／チーム

②マクブリッジ杯 ジュニア・一般 750円／人

JCBL 会員会友（割引価格）500円／人

7. 集中講座（232千円） ※ 新規事業

リピーター層を対象に集中講座を開催し、ジュニアのブリッジに対する知的好奇心の持続を後押しするとともに、技術向上、コントラクトブリッジへの移行を促す。毎回テーマを決めて、3コマ1セットで集中的に指導、教材はジュニア部会で製作中のものを使用する。開催日は、秋の連休、春休みなど、ジュニアが参加しやすい時期から選ぶ。

開催回数：四谷・横浜で合計3回、京葉地区で1回の計4回を予定。

## 広報部【27,202 千円】

定款第 5 条 (1) に定められた「コントラクトブリッジに関する広報及び講習会等の開催と援助」について、次の広報活動を実施する。

### 1. ブリッジ普及広報宣伝活動 (11,101 千円／広告料収入予測：1,115 千円)

「ブリッジ」の知名度を全国的に向上させ、会員増につなげていくため、費用対効果の高い広報・広告活動を引き続き展開する。また、公益社団法人への移行を見据え、より公益性の高い有益な情報発信に一段と注力するとともに、2012APBF コングレス福岡大会の成功に向けて効果的な広報活動を推進していく。

#### 【事業内容】

#### (1) 中・長期広報戦略（広報戦略／広告戦略）の策定のための調査の実施

中長期的な観点から、公益社団法人に相応しい広報戦略を策定するための調査活動を継続する。

##### ① 「ブリッジ認知度およびコントラクトブリッジに関するアンケート調査」の分析

昨年度実施済み調査の分析の継続

##### ② グループ調査の実施・分析

他の事業部門と連携して実施、普及広報戦略のみならず、魅力的な競技会の開発や JCBL 事業の改善にも活用できる総合的な調査を行う。

#### (2) 媒体への広告掲載

平成 22 年度「日経 BP 広告賞」優秀ライフスタイル賞を受賞したイメージ広告を効果的に展開するとともに、それに続く魅力ある広告原稿の新規製作を検討する。公益性、テーマ、効果的な展開方法・時期などを総合的な観点から検討して出稿する。また、電子媒体の活用も検討する。

#### (3) ブリッジ動画製作

電子広報ツールとして、「ブリッジゲームの基本的流れ」を短時間の動画に映像化する。また、YouTube などの電子媒体への掲載を実験的に行い、その効果を分析して有効な活用方法を検討する。また、2002 年度に製作したプロモーションビデオ「ようこそ！ブリッジの世界へ～」の内容にブリッジ界の現状と合わない箇所が多くなってきたため、写真やナレーションを部分変更する方式で刷新する。

#### (4) プレスリリースの作成／配信／クリッピングサービスの利用

即時性、ニュース性のあるリリースの作成と配信＝平成 23 年 12 月に予定している JCBL ウェブサイトリニューアル時には、内容・表現制限の有無などの観点から、プレス／一般／会員それぞれに分けた掲出方法を採用し、発信回数増をはかる。

#### (5) 全国各ブリッジクラブ主催（参加）イベントの広報活動支援

#### (6) 「全国の図書館へのブリッジ図書寄贈プロジェクト」第 3 弾の実施（50 ヶ所予定）

#### (7) 他のマインドスポーツ団体とのタイアップイベントへの参加

### 2. ブリッジに関する出版物の刊行 (10,170 千円)

定款第 5 条 (6) に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行」について、次の書籍を出版する。

#### (1) 会報「JCBL Bulletin」

年 6 回 奇数月 1 日 発行、各 7,500 部

(2) 「JCBL HANDBOOK」

5月1日発行、8,000部

3. 広報ツールの製作 (977 千円)

ブリッジの認知度向上および普及活動に広く活用するため、多様な展開が可能な効果的な広報ツールを企画・製作する。

[事業内容]

- (1) 初心者大会の賞品ほか、会員サービスとして活用が可能な廉価なグッズの製作
- (2) 広報ツール用素材として橋之介ファミリー&フレンズのイラスト画第2弾の製作
- (3) オリジナル年賀状の製作と印刷
- (4) 広報パネルの製作
- (5) ブリッジ総合パンフレットの更新
- (6) PR 動画配付用コピー作成
- (7) その他

4. ウェブサイトの運営 (4,954 千円)

ウェブサイトを公益に資するマインドスポーツ、ブリッジへのアクセス窓口と位置付け、有益な情報をタイムリーに発信していく。通常運営と並行して、サイトリニューアル作業を進め、12月初旬の完成を目指す。また、HTML方式からCMS方式へスムーズに移行していくため、事務局内で勉強会や研修を実施する。

5. APBF 福岡大会広報宣伝活動 (APBF 実行委員会事業の支援、(2)以外の経費は同委員会が計上)

APBF 福岡大会の成功に向け、以下の広報宣伝活動を活発に行う。

[事業内容]

- (1) 大会ウェブサイトの開設・運営 (6月開設予定)
- (2) 媒体への広報宣伝活動
- (3) 大会プログラムの製作
- (4) 大会広報ツールの製作 (PR用パンフレット、ポスター、チラシ)
- (5) プレイヤー向けお役立ちガイドの編集
- (6) 大会グッズの製作
- (7) その他

**その他普及事業部の目的を達成するための事業 【32,004 千円】**

普及事業部の目的を達成するため、本年度は以下の事業を実施する。

1. 各種講習会への会場の提供
2. その他目的達成に必要な経費

人件費、交通費、通信費、会議費など、普及・出版・広報活動に必要な経費

# 競技会事業部

## 事業の状況

### 1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認【収入 180,410 千円】

定款第5条(3)に定められた「コントラクトブリッジ競技会の主催と公認」については、本年度は以下の事業を実施する。

#### (1) 競技会の実施 (収入 52,052 千円)

##### 1) ナショナル (全国大会) 競技会 [収入 31,540 千円]

競技会名	日 程	予定卓数
玉川高島屋 S・C 杯	4月 16、17 日	90
文部科学大臣杯関東予選	5月 7、8、14、15 日	65
藤山杯	7月 2、3 日	122
外務大臣杯	8月 20、21 日	68
高松宮記念杯	9月 17、18、19、24、25 日	108
全日本女子ペア選手権	10月 1、2 日	140
高松宮妃記念杯	11月 5、6 日	88
NISSAN ブルーリボン杯	12月 23 日	130
エンゼル・レッドリボン杯	12月 23 日	45
朝日新聞社杯	1月 7、8、9 日	160

##### 2) リジョナル競技会 [収入 18,864 千円]

柳谷杯	4月 2、3 日	140
サントリー杯	4月 29 日	120
野崎杯	4月 30 日	26
井上杯	5月 28、29 日	66
井上歌子杯	5月 29 日	24
モンタルト杯	7月 23、24 日	36
丸の内杯関東予選・決勝	8月 27、28 日	9
夏季シニアペア	8月 27 日	20
夏季シニアチーム	8月 28 日	16
萩原杯	10月 15、16 日	100
服部杯	12月 7 日	180
春季リジョナル	3月 17、18 日	32
渡辺杯	3月 24、25 日	52

##### 3) 日本リーグ [収入 3,360 千円]

1 部	前期 4、6 月、後期 12、1 月	16
2 部		24

##### 4) 社会人リーグ [収入 288 千円]

社会人 IMP リーグ	11 月～3 月	16
-------------	----------	----

##### 5) 参加料割引 [△2,000 千円]

#### (2) 競技会の公認 (収入 125,698 千円)

##### 1) ナショナル競技会 [収入 1,000 千円]

NRM 杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む 20 競技会を公認		200
--	--	-----

##### 2) リジョナル競技会 [収入 6,576 千円]

主催リジョナル競技会予選を含む 42 競技会を公認		1,500
---------------------------	--	-------

##### 3) セクショナル競技会 [収入 97,022 千円]

約 1,900 競技会を公認		32,000
----------------	--	--------

##### 4) ローカル競技会 [収入 1,800 千円]



約 720 競技会を公認	4,000
5) IMP リーグ [収入 30,000 千円]	
5 月～9 月	2,500
11 月～3 月	2,500
6) クラブ選手権 [収入 8,600 千円]	
約 1,450 競技会を公認	12,300
7) 参加料割引 [△19,300 千円]	
(3) ウィークリー収入 (2,660 千円)	
(4) 競技会の主催と公認事業経費 (42,725 千円)	
競技会の開催と公認及び定款第 5 条(4)に定められた「マスターポイント制度の確立と実施」の ために必要な主な経費の内訳は以下のとおり：	
人 件 費 [13,666 千円]	旅費交通費 [ 50 千円]
通信運搬費 [ 2,200 千円]	会 場 費 [15,265 千円]
消耗品費 [ 110 千円]	賞 品 費 [ 6,012 千円]
助 成 金 [ 5,421 千円]	

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催 (5,982 千円)

競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会の開催、競技会運営ソフトの開発などについては、本年度は以下のような事業を実施する。

- (1) ディレクター講習会 [192 千円]
- ・東京および地方でクラブ並びにセクショナルディレクター講習会を開催する。
  - ・ディレクター講習会受講者向けに実地に教育する実習の場を設けディレクターの技術向上をはかる。
  - ・ディレクター勉強会を開催する。
  - ・ディレクター講習会用教材、ディレクターマニュアル改訂、ディレクター向けウェブサイトの作成など教材、資料などの作成、整備を行う。
- (2) 競技会運営システムの保守 [2,712 千円]
- 平成 14 年度から開発を開始し平成 22 年 9 月にバージョン 2.9 をリリースした競技会集計ソフト (JTOS) については、本年度は以下のような事業を実施する。
- ・開発用機材購入費                   150 千円
  - ・メンテナンス料                   2,520 千円
  - ・会議費                               42 千円
- (3) ブリッジライブラリー運営事業 [350 千円]
- 定款第 5 条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行および資料の収集と管理」について、本年度は次のような事業を行う。
- ・図書分類、キーワード設定経費                   10 千円
  - ・消耗品費                           40 千円
  - ・書籍購入費                         150 千円
  - ・書籍製本費 (雑誌の製本および破損図書の修理)   150 千円
- (4) 公認クラブ支援 [587 千円]
- 地方クラブ会議出席に対する支援を行う。
- ・会議費および食事代                   102 千円
  - ・地方クラブ会議宿泊費補助           135 千円
  - ・地方リジョナルディレクター派遣助成   350 千円
- (5) 競技委員会 [246 千円]
- 競技会における裁定、コンベンションの規程の制定、マスターポイント規則の管理など技術的事項の検討を行う。
- (6) ルール委員会 [20 千円]
- 「デュプリケートブリッジの規則 2007 年版」の JCBL としての解釈を公表し、プレイヤーへの啓蒙を行う。

(7) センターサービス向上委員会 [1,004 千円]

ブリッジセンターおよび常設ブリッジクラブのゲーム環境全般についての検討およびサービス向上策の企画立案を行う。

- ・ AED 購入費用 960 千円
- ・ 会議費 44 千円

(8) ナショナルディレクター養成 [871 千円]

ナショナルディレクターを養成し、将来連盟主催競技会のディレクターを担当させる。

- ・ 実地訓練費用 650 千円
- ・ 交通費助成 100 千円
- ・ 会場費 100 千円
- ・ 会議費 21 千円

3. その他競技会事業部の目的を達成するための事業【30,570 千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

# 国際交流事業部

## I 事業の状況

### 1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施する。

#### (1) 第48回アジアパシフィックブリッジ連合(APBF)マレーシア大会への代表派遣 [2,641千円]

会 期：平成23年6月14日～24日

会 場：クアラルンプール、マレーシア

事業内容：1) オープン、ウィメンズおよびシニアの代表チーム派遣  
2) 代表チームへの大会参加料の助成  
3) APBF 代表者会議へ役員派遣

#### (2) 世界ゾーンチーム選手権への代表派遣 [7,957千円]

会 期：平成23年10月15日～29日

会 場：フェルトホーフエン、オランダ

事業内容：第48回 APBF 選手権で代表権を獲得すれば10月15日～29日に開催される世界ゾーンチーム選手権に代表を派遣する

#### (3) 第2回 WMSG 日本代表選抜試合 [940千円]

会 期：平成23年11月12,13日、12月10,11日（オープン、ウィメンズ）  
平成24年2月11,12日（シニア）

会 場：四谷ブリッジセンター

事業内容：1) 第2回ワールドマインドスポーツゲーム（開催地、開催時期未定）に参加するオープン、ウィメンズ、シニア各1チームを選抜  
2) 選抜試合参加者への交通費と宿泊費の助成  
3) 代表チームへの国内試合参加料、練習会費用の助成

#### (4) 代表チームユニフォーム助成 [560千円]

事業内容：第48回 APBF 選手権日本代表チームにユニフォームを支給する。

### 2. 第17回 NEC ブリッジフェスティバルの開催 (24,513千円)

会 期：平成24年2月14日～19日

会 場：横浜国際平和会議場

事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進をはかる。

1) NEC 杯：平成24年2月14日～18日

2) 横浜 IMP ペア：平成24年2月17日

3) 横浜スイスチーム：平成24年2月18日

4) 飛鳥杯：平成24年2月19日

5) BIGLOBE シリーズ：平成23年9月～12月

6) ミニブリッジ体験教室の開催（普及事業部扱い）（収入11,240千円）

### 3. APBF コンgress福岡大会開催準備作業 [9,856千円]

事業内容：2012年8月に福岡で開催予定の APBF コンgressの準備作業

#### 4. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施する。

(1) 世界同時大会への参加

平成 23 年 6 月 3 日および 4 日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力

(2) APBF 同時大会への参加

平成 23 年 11 月～平成 24 年 4 月まで毎月第 1 金曜日／土曜日に開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力

(3) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

1) ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会を会報で紹介

2) APBF 加盟国競技会の開催情報の提供

3) WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

4) JCBL ホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。

(4) その他目的達成に必要な経費[3,178 千円]

交通費、通信費、会議費等の国際交流事業に必要な経費

# その他の事業

## 1. その他連盟の目的を達成するための事業（51,297 千円）

JCBLの目的を達成するために必要な事業として、本年度は以下の事業を実施する。

### (1) 事務局（一般管理費）の維持

理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援する。

### (2) 第2次5ヶ年計画の実施

企画委員会を中心に作成・採択され、平成20年度より開始した第2次5ヶ年計画の目標達成に努める。

### (3) 公益法人制度改革対応

平成20年12月より施行された公益法人制度改革関連3法に対応し、平成24年4月を目標に新制度での公益社団法人に移行するための作業を行う。

### (4) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）

#### 1) 商品販売事業

ブリッジ用品の補給及び販売

#### 2) 四谷ブリッジセンターとの提携

NPO法人四谷ブリッジセンターと協同してブリッジの振興に努める。

### (5) 基金の運用

主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料をチャリティ基金の資金に充当して各種活動を支援する。

#### 1) チャリティ基金

日本赤十字社、癌研究会等の各種団体に寄付する。

# 九州支部

## 1. 基本的考え方

本年度は、APBF コンgress福岡大会を目前にして、普及活動の当面の山場を迎える。前年度に引き続き、「APBF2012」福岡委員会アピール（3項目）の方針を踏まえ、第7回 APBF コンgress福岡大会の成功に向けて、同委員会と協力しながら事業活動を展開する。同アピールは地元協力組織のJCBLに対する期待の表れとも言えるものであり、この期待に応えるべく、普及事業部をはじめ各事業部との効果的連携をはかっていく。

（参考）福岡委員会アピールの骨子：①「国際親善・文化交流の進展と地域活性化に資するAPBF大会」を目指すとともに、コンgress開催をブリッジ普及の絶好の機会と捉える、②学校教育・社会教育・生涯教育におけるブリッジ普及活動の推進、③大学や企業へのブリッジクラブや同好会の設立に努力する

## 2. 活動方針

### （1）普及事業

支部設立の趣旨を念頭に置き、「年齢・性別を超えて一緒に遊べる楽しいブリッジ」の普及のため、広報活動を多彩に展開する。具体的には、社会教育、地域、各種団体、企業等への働きかけを行い、ブリッジ愛好者の増大に努め、コントラクトブリッジ競技人口の拡大を目指す。また、支部会報の発行、ミニブリッジインストラクター養成講座、支部主催の体験教室の開催、民間カルチャーセンターや専門学校との連携によるブリッジ講座の開催等を着実に実行していく。

APBF コンgress福岡大会には、地元九州からできるだけ多くのエントリーを目指している。この4月から開講の運びとなった福岡大学の講座を、そのための大きなチャンスと捉え、地元プレイヤーの協力も得ながら、将来有望な若手プレイヤーの育成に取り組む。

### （2）競技会事業

地元九州チームの実力向上を期して、魅力ある競技会の開催に努める。

3月と7月の2回のリジョナルは、九州地区最大のブリッジイベントとして開催する。とくに7月の山笠リジョナルは、今年から「福岡市長杯」の名義使用が認められたことに加え、APBF プレ大会という位置付けで開催することに決定したことから、福岡ブリッジプラザとともに、来年の本大会につながる大会となるよう努める。より多くのプレイヤーに参加していただけるよう、試合形式も従来から一部変更する予定である。また、前年に引き続き、海外チームの招待も行う。

### （3）福岡ブリッジプラザとの連携

福岡ブリッジプラザとの連携は、引き続き強化していく。支部とプラザ幹事で構成する運営会議を充実させながら、同プラザの健全かつ安定的な経営をサポートする。

## 九州支部事業活動の主な項目

1. 福岡市長杯・テレビ西日本杯（7月）、九州リジョナル・西日本新聞社杯（3月）主催
2. 第7回 APBF コングレス福岡大会開催に向けた活動
  - (1) 「APBF2012」福岡委員会との連携活動
  - (2) 同委員会内に設置された小委員会との協力
  - (3) 福岡大学提供講座の展開と新規開拓
  - (4) 山笠ブリッジ祭りへの外国チームの招待
3. 市民向けブリッジ普及活動の支援体制づくり
  - (1) 福岡ブリッジプラザ主催のコントラクトブリッジ普及講座等への支援
  - (2) 高齢者および学童を対象とする支部主催ミニブリッジインストラクター養成講座の開催（修了後は地方会員になり支部活動の支援者となるインストラクターを養成）
  - (3) 公民館職員を対象にしたブリッジ普及活動ほか
4. ブリッジ普及活動（一日体験教室、講習会、出前講座の開催）
  - (1) 社会教育、学校教育、生涯教育分野でのブリッジ普及活動  
福岡市立板付中学校、キャビンアテンダント専門学校等の支援、  
佐賀県での体験教室開催等、新規開拓
  - (2) 民間カルチャーセンターとの連携によるコントラクトブリッジの普及事業  
三池カルタ・歴史資料館、熊日生涯学習プラザとの連携拡大、新規開拓
5. ミニブリッジ大会「緒方杯」の開催
6. ブリッジ普及（APBF コングレスへの支援活動を含む）に賛同する法人賛助会員の拡大および特別協賛法人の発掘
7. 支部広報活動の展開
  - (1) 支部会報発行（年間2～3回）
  - (2) メディア・市政だより等への働きかけ

# 福岡ブリッジプラザ

本年度は、APBF コングレスを1年後に控え、大規模なプレ大会が予定されている節目の年であると同時に、その1年後である平成24年度に向けて収支均衡を維持できるような体制を確立しなければならない重要な年でもある。

この大きな課題に向け、今年度は以下の活動を行う。

まず、前年度までに果たせなかった組織的な運営体制の構築に取り組む。本年度中に人材の開拓・確保に取り組み、必要な規約を整備したうえで、体制の確立を目指す。これ自体で収支均衡が達成できるものではないが、そのための大きな牽引力になると思われる。

収支改善のため、今年度も、新人および入門講習会受講者の開拓と定着に一層努力するとともに、魅力ある競技会を企画して、競技会参加者の増加をはかる。

また、次のとおり、収支改善のための具体的目標を前年度の実績を基に設定した。

- 普及については、今年度も無料体験教室を従来通り9月末と3月末に開催して新人発掘に取り組むが、より多くの参加者を募るため、PR方法を改善する。体験教室のPR方法はこれまでリビング誌による広告が主体であったが、その効果を余り期待できなくなってきているため、費用がかからずより効果が大きい知人による紹介という方法をさらに徹底するとともに、他の媒体によるPR方法も模索していく。
- また、入門講習会を終了した新人プレイヤーの定着をはかるため、レベルアップ講習会および講習会に近いサロンを充実していく。例えば、入門コースを終えた人に対しては、入門レベルアップ講習会あるいは初級レベルアップ講習会を、さらにコンベンションや2オーバーワンを学びたい人に対しては中級レベルアップ講習会を実施する。
- IMPリーグは、夏と冬の2回、火曜、金曜、土・日、および新人の4リーグを従来通り開催する。セクショナルの開催回数を増やすことは他の競技との関係上難しいため、新人も参加しやすいイーブンチャンスチーム戦の割合を大幅に増やし、参加者数の増加をはかっていく。

## [主な事業活動]

### 1. 普及事業

#### (1) 無料体験教室

9月の体験教室：参加20名

3月の体験教室：参加20名

#### (2) 入門講習会

4月～9月の入門講習会：10名受講

10月～3月の入門講習会：10名受講

#### (3) 外部入門講習会

西高宮公民館ほか



- (4) サロン  
月曜～金曜：延べ 1,500 名
- (5) レベルアップ講習会  
入門レベルアップ（6 ヶ月経過）：年間延べ 200 名  
初級レベルアップ（12 ヶ月経過）：年間延べ 200 名  
中級レベルアップ（18 ヶ月経過）：年間延べ 200 名  
中級（上級を目指す）：年間延べ 500 名

## 2. 競技会事業

- (1) ウィークリーゲーム  
月曜午後：平均 4 テーブル 延べ 700 名  
火曜午後：平均 4 テーブル 延べ 700 名  
水曜午後：平均 4 テーブル 延べ 700 名
- (2) ローカル  
土日ローカル：月 2 回 平均 8 テーブル 延べ 760 名  
火曜ローカル：月 1 回 平均 5 テーブル 延べ 240 名  
金曜ローカル：月 1 回 平均 6 テーブル 延べ 300 名
- (3) IMP リーグ  
新人リーグ：6 チーム×2  
火曜リーグ：4 チーム×2 長崎、広島 1 チーム  
金曜リーグ：6 チーム×2  
土日リーグ：6 チーム×2 長崎、熊本、広島 1 チーム
- (4) セクショナル  
オープンチャンス：6 回  
ハンディキャップペア：2 回  
新人セクショナル：1 回  
その他：11 回
- (5) ナショナル（リジョナル）予選  
文部科学大臣杯：2×2 テーブル  
外務大臣杯：4 テーブル  
高松宮妃記念杯：4 テーブル  
柳谷杯：5 テーブル  
玉川高島屋 SC 杯：3 テーブル  
全日本女子ペア：5 テーブル
- (6) 山笠リジョナル  
福岡市長杯：25T TNC 杯：25T  
新人ローカル 1 & 2：20T 新人セクショナル：10T
- (7) 九州リジョナル  
リジョナル 1 & 2：20T 西日本新聞社杯：20T  
新人ローカル 1 & 2：20T 新人セクショナル：10T